

日本消防



- 平成21年度消防団多機能型交付車両交付式
- モデル少年消防クラブの募集について
- 各都道府県における消防操法大会の結果について

□ 絵 平成21年度 第36回消防団幹部特別研修 H22.1.19～22 (財)日本消防協会
ラジオ番組「おはようニッポン! 全国消防団」好評放送中! (財)日本消防協会

巻頭言「消防団の拠点化の推進と人材の確保を!」

.....財団法人 新潟県消防協会 会長 櫻井 守	1
消防団の現況	3
平成21年度 消防団多機能型車両交付式	6
モデル少年消防クラブの募集	8
都道府県における消防操法大会の結果	14
第36回消防団幹部特別研修結果について	27
「消防団員入団促進キャンペーン」の実施	29
平成22年度春季全国火災予防運動の実施	30
東西南北(京都府)「めざせ西京火災ゼロ」への挑戦	32
東西南北(神奈川県)「災害に強いまちづくりを目指して」	34
東西南北(大阪府)「地域に密着した消防団」	36
シンフォニー(東京都)「寸劇チーム15分間の奇跡」	38
「現在・過去・未来 思いを継いで、つないで」狩江女子消防隊のあゆみ	40
少年消防クラブ活動への理解と参加の呼びかけ	43
防災・危機管理教育 ～e-カレッジの大幅リニューアル～	44
消防団の広場(大分県)消防団員意見発表会で最優秀賞を受賞して	45
うちの名物団員	46

3月の日本消防協会関係行事
編集後記

表紙写真説明

雪の天橋立

日本三景の一つ天橋立は、全長約3.6km、幅約20～170mの砂浜に約8千本もの黒松が生い茂り「日本の名松百選」として名高い所です。白砂青松の美しさのほか、南側の高台から見る天橋立は「飛龍観」と呼ばれ、龍が天に舞い上がる姿のよう。今、世界遺産登録に向けた取り組みがなされています。

京都府宮津市

平成21年度 第36回消防団幹部特別研修

平成22年1月19日～22日 (財)日本消防協会



ラジオ番組
「おはよう！ニッポン全国消防団」
好評放送中！
(財)日本消防協会



～10月放送～
ゲストパーソナリティの
平尾 昌晃さん（左）
山本剛士ニッポン放送
アナウンサー（右）

～11月放送～
ゲストパーソナリティの
千葉絃子さん（左）



～12月放送～
ゲストパーソナリティの
ジュディ・オングさん（左）



「消防団の拠点化の推進と人材の確保を！」

財団法人新潟県消防協会 会長 櫻井 守



近年、新潟県では二度の大きな大災害を経験しました。皆様ご承知のとおり、平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震とその約3年後の平成19年7月16日の新潟県中越沖地震です。中越地震では死者59人や全半壊等の建物約16万棟もの被害、中越沖地震では死者14人、2万8千棟を超える被害を受けたところです。中越地震からは5年を経過し、復興もほぼ終えたところですが、中越沖地震の復興はまだ途上であり、柏崎原子力発電所の再開問題等を抱えていることはテレビ等で報道されているとおりです。

地震に際しての地域防災活動としての消防団の活躍は、これまでいろいろと報道されているところであり、細かくここで取り上げませんが、大規模災害の初期対応での感想をここで述べてみたいと思います。

地震では、最初に情報連絡網を始めとするライフラインが途絶えるため、真っ先に不安が大きくなるのしかかってくるのが挙げられます。こうした場合にはともかく不安を払拭するため住民一人一人が地域を自分たちで守るという意識を持つことが必要だと思います。

そして、近隣の人たちでも一緒に協力しようという助けあいの心を持つことが何よりもまして強い力となるものです。

このたびの地震を顧みて、住民の生命、財産を守るために率先して行動し、指導する消防団が大きな力となった機会であり、その能力が倍以上発揮できた経験であったと感じております。

現在、新潟県の消防団は、約3万9千人という規模をもっていますが、全国の消防団がもつ消防団員の減少という問題を抱えております。県内においても近年の都市化、雇用の多様化、個人のプライバシーの尊重等により都市部だけではなく、農村部でも青年団等への参加や結束力が弱体化しており、消防団の参加に消極的な状況がみられます。

しかしながら、一方ではボランティア意識や地域活性化への働きかけの動きも活発化してきており、いかにしたら消防団への意識を向けられるか、機会をとらえ真剣に議論する時期にきているのではないのでしょうか。

考えてみると、昔は家庭では祖父母、両親が子供に「皆と仲良く、町のためになるように」と教えたものでした。しかし個人の人権の尊重や核家族化の進行等が進む中でこうした教えがなくなり、地域共同意識が薄れてきたことは事実であります。

私は、消防団への加入要請の前にまず住民一人一人がこれまでの地域に対する思い

を見直し、お互い意見を交換し、郷土についての意識を高めていくことが必要と考えています。

例えば幼少期からの教育に「地域とのかかわりや地域を守る消防」について取り上げ、成人に至るまで継続して問題意識を持ってもらうこともひとつの方策ではないでしょうか。

幼児期では保育園や幼稚園等の行事の中で地域と触れ合う機会が多いとは思いますが小学校から高校までは、学校教育が中心であり地域とのかかわりが稀薄になっていると感じております。地域を理解し、地域と密接な関係を作り上げるには学校教育の中に郷土の歴史や郷土の文化等の講座等を設ける等の教育を取り入れていくべきではないかと思っております。

地域との交流を通じて地域共同体のあり方を理解し、それが消防に対する意識を高めることに繋がっていくのではないのでしょうか。

今日、全国的に問題となっている消防団への加入を促進し、消防団を活性化させるためには消防団の拠点化と人材の育成が必要と考えています。

福祉の部門では、老人ホームや福祉サービスセンター等を中心としてボランティアを育成しているように、消防団も地域に根ざした活動をアピールし、消防活動をボランティアとしてやってみたいと思う志願者を受け入れるためには誰でも容易に訪れることができる拠点が必要です。

消防に関係した活動をやってみたいがどこで受け入れてもらえるのか、またどんな活動をしているのかなどと思う若者も案外多いのではないかと思います。地元の公民

館等を利用してもよいとは思いますが、まずいつでも集い、気軽に話し合える活動の拠点化を図ることが必要であると思えます。

次に人材の育成です。拠点化とともにそこに消防に関する知識だけでなく郷土や社会について語れる立派な人格を持った指導者を置き、地域の成り立ちとともに地域を守る消防の大切さを話してもらうことが必要と感じております。指導者は消防団員に限らず、地域の長老や教師をしていたという人などから指導していただくことも一つの方法であると思っています。また、優秀な女性消防団員による活発な広報啓発活動も有能な人材や後継者を育てる大きな力であると考えます。拠点化により消防に対する関心を高め、人材の確保と育成により、消防団員の資質の向上と消防に対する意欲の増進、ひいては消防団への加入促進にもつながるのではないのでしょうか。

今、消防団は、雇用や勤務形態の変化など社会の多様化、複雑化等の中でどう地域を守るかの課題に対応した体制を整える転換期にきていると思います。それぞれの地域で問題点と方策について議論し、新たな消防団のあり方を考えることが必要です。

地域に根ざした消防団を目指して安全で安心な社会を作るため、これからも皆様とともに努力していきたいと思っています。

消防団の現況

財団法人 日本消防協会

1 消防団数の動向

消防団の数は、市町村合併に伴う消防団の統合などにより、全国的に減少が続いている。消防団は、平成15年の3,589団であったものが、その後、平成18年の2,552団（対平成15年比△1,037団）と大幅に減少した。

その後は、平成19年、2,457団（対前年比△

95団）、平成20年、2,361団（対前年比△96団）平成21年、2,312団（対前年比△49団）と減少は続くものの、減少数は低下している。これは市町村合併に伴う消防団統合がほぼ落ち着いてきたことによるものと推測される（表1・付表1）。

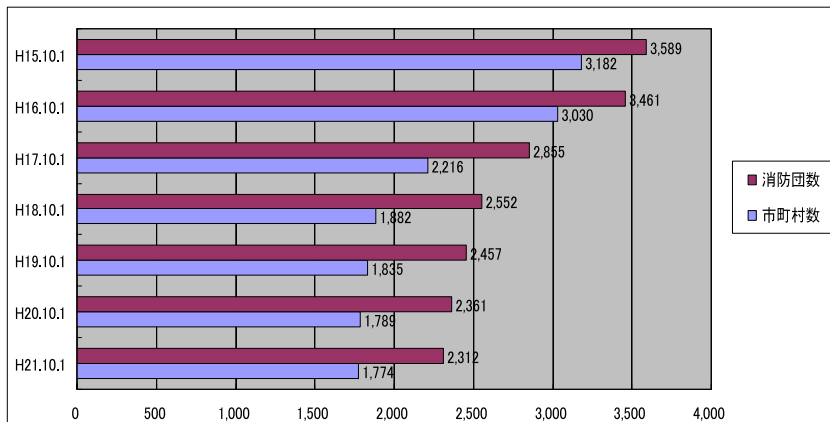


表1 市町村数及び消防団数の推移

2 消防団員数の動向

近年、地域の人口、特に若年層人口の減少、就業構造の変化、地域社会への帰属意識の希薄化等から消防団員数は減少傾向にある。

平成21年10月1日現在の団員数は888,662人で、前年同月の891,293人に対し2,631人、0.30%の減少となっている。また、平成15年同月の928,859人に比べ、40,197人、4.3%の減少である。

一方で、このような全体としての減少傾向の中であって、この1年間に14（前年は10）の都道府県では団員が増加している。この増加の主な要因としては、企業、事業所に対する協力要請や女性消防団員の新規採用、団員

確保の取り組みをはじめ、機能別消防団員の採用などがあげられる。

さらに、女性消防団員についてみると、平成21年10月1日現在、18,514人となっており、平成15年（12,823人）に比べると、5,691人、44.4%と大幅に増加しており、採用団数は全体の51%に増加している（表2）。

こうした消防団員確保のための積極的な取り組みによって、減少数、減少率は、平成17年をピークとして年々その趨勢が鈍化してきている（表3）。

なお、定員に対する充足率は、平成21年10月1日現在94.1%であり、ここ数年変化はない（表4）。

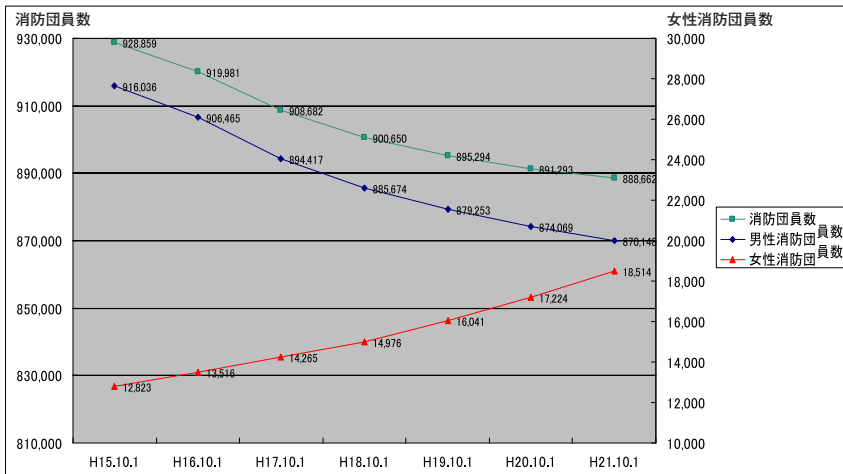


表2 消防団員数推移

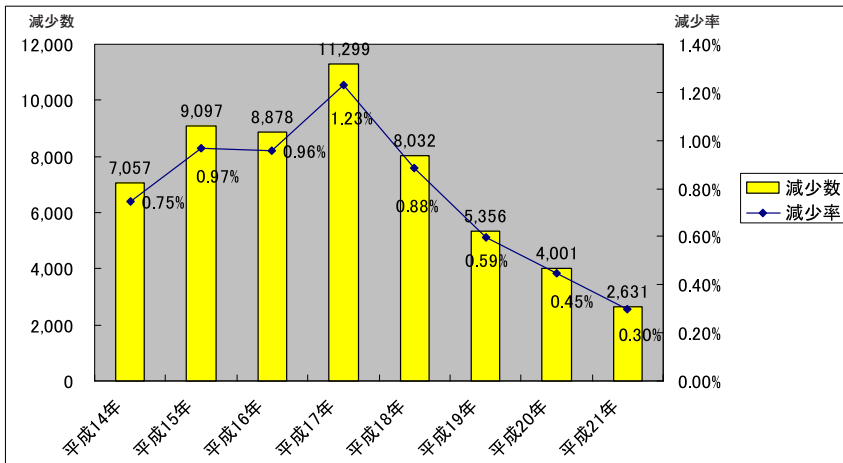


表3 消防団員数減少数及び減少率の推移

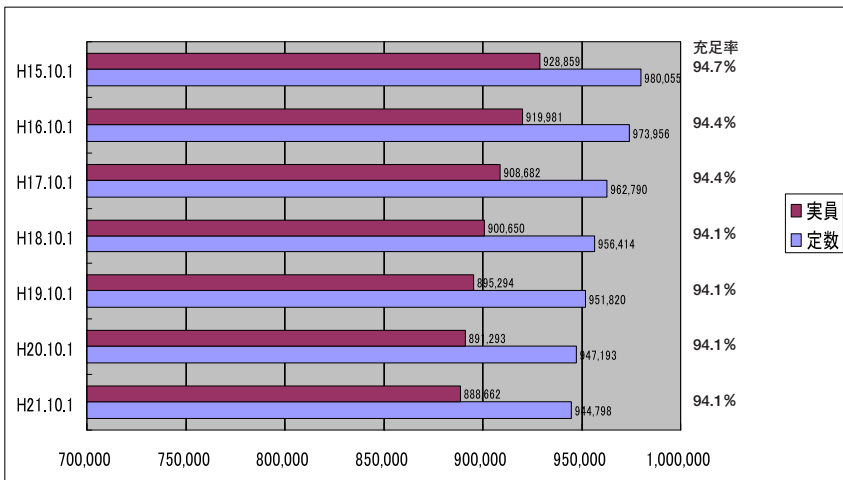


表4 消防団員数充足率の推移

都道府県別市町村数、消防団数及び消防団員数

(付表1)

	市町村数			消防団数			消防団員数			
	H20.10.1	H21.10.1	増減	H20.10.1	H21.10.1	増減	H20.10.1	H21.10.1	増減	
北海道	180	180	0	214	208	△ 6	26,580	26,508	△ 72	
東 北	青森	40	40	0	51	47	△ 4	20,064	20,003	△ 61
	岩手	35	35	0	41	39	△ 2	23,564	23,471	△ 93
	宮城	36	35	△ 1	49	48	△ 1	21,966	21,821	△ 145
	秋田	25	25	0	33	32	△ 1	18,291	18,196	△ 95
	山形	35	35	0	35	35	0	26,475	26,268	△ 207
	福島	59	59	0	59	59	0	35,731	35,583	△ 148
関 東	新潟	31	31	0	38	36	△ 2	39,848	39,606	△ 242
	東京	40	40	0	98	98	0	24,457	24,722	265
	神奈川	33	33	0	64	64	0	18,914	18,624	△ 290
	埼玉	70	70	0	71	71	0	14,441	14,365	△ 76
	群馬	38	36	△ 2	40	38	△ 2	12,239	12,117	△ 122
	千葉	56	56	0	50	50	0	27,684	27,515	△ 169
	茨城	44	44	0	50	48	△ 2	24,733	24,609	△ 124
	栃木	31	30	△ 1	37	36	△ 1	15,057	15,093	36
	山梨	28	28	0	28	28	0	15,925	15,684	△ 241
	長野	81	80	△ 1	81	80	△ 1	36,929	36,818	△ 111
中 部	福井	19	17	△ 2	18	18	0	5,431	5,558	127
	石川	19	19	0	23	23	0	5,326	5,323	△ 3
	富山	15	15	0	15	15	0	9,746	9,772	26
	三重	29	29	0	39	39	0	13,843	13,794	△ 49
	愛知	61	60	△ 1	341	341	0	24,298	24,309	11
	静岡	41	37	△ 4	41	37	△ 4	21,403	21,353	△ 50
近 畿	岐阜	42	42	0	46	46	0	21,312	21,393	81
	京都	26	26	0	36	36	0	18,515	18,442	△ 73
	大阪	42	43	1	42	43	1	10,352	10,485	133
	兵庫	41	41	0	65	62	△ 3	45,728	45,461	△ 267
	奈良	39	39	0	39	39	0	8,969	8,941	△ 28
畿 東	滋賀	26	26	0	26	26	0	9,375	9,559	184
	和歌山	30	30	0	34	34	0	12,076	12,059	△ 17
	鳥取	19	19	0	19	19	0	5,205	5,191	△ 14
中 国	島根	21	21	0	21	21	0	12,830	12,756	△ 74
	岡山	27	27	0	27	27	0	29,215	29,113	△ 102
	広島	23	23	0	30	30	0	22,756	22,617	△ 139
	山口	20	20	0	20	20	0	13,836	13,781	△ 55
四 国	徳島	24	24	0	27	27	0	10,975	10,950	△ 25
	香川	17	17	0	17	17	0	7,729	7,743	14
	愛媛	20	20	0	20	20	0	21,006	21,029	23
九 州	高知	34	34	0	40	40	0	8,138	8,211	73
	長崎	23	23	0	23	23	0	21,056	20,972	△ 84
	福岡	66	66	0	84	83	△ 1	25,639	25,585	△ 54
	大分	18	18	0	33	27	△ 6	15,913	15,917	4
	佐賀	20	20	0	35	28	△ 7	19,768	19,834	66
	熊本	48	47	△ 1	48	47	△ 1	35,400	35,020	△ 380
	宮崎	30	28	△ 2	37	32	△ 5	15,298	15,239	△ 59
	鹿児島	46	45	△ 1	46	45	△ 1	15,629	15,601	△ 28
沖縄	41	41	0	30	30	0	1,628	1,651	23	
合計	1,789	1,774	△ 15	2,361	2,312	△ 49	891,293	888,662	△ 2,631	

平成21年度 消防団多機能型車両交付式

財団法人 日本消防協会

(財)日本消防協会では、(財)日本宝くじ協会のご支援により、全国消防団の整備充実を図るため、従前の消火に必要な資機材に加え、救助、救急用資機材を積載し、火災のほか救助等にも活動ができる消防団多機能型車両を、平成19年度から2ヶ年にわたり、全国各都道府県に各1台をモデル的に交付し、新たに今年度も引き続いて16台を交付しました。

交付式は平成21年12月18日広島県呉市で開催し、交付式には小村市長をはじめ多数の消防関係者が出席されました。

日本消防協会秋本理事長より、「ぜひ、

訓練を重ね、早く資機材の取扱いに習熟していただき、十二分に活用して市民の期待に応えて頂くようお願いします。」とのあいさつを頂き、続いて小村市長より「いただいた車両を十分活用していきたい」とのあいさつがありました。

続いて、秋本理事長より呉市消防団大段消防団長に車両の交付状及びキーが贈呈され、大段団長の謝辞の後、秋本理事長、小村市長、赤坂消防局長、大段団長によりテープカットが行われ交付式は終了しました。



日本消防協会 秋本理事長あいさつ



呉市 小村市長あいさつ



秋本理事長より大段団長に交付状の贈呈



大段団長謝辞



左から尾濱消防協会事務局長・赤坂消防局長・秋本理事長
小村市長・大段団長によるテープカット



呉市消防団交付車両

平成21年度消防団多機能型車両 交付先消防団

都道府県名	交付先消防団	都道府県名	交付先消防団
北海道	七飯消防団	大阪府	島本町消防団
青森県	鶴田町消防団	奈良県	橿原市消防団
宮城県	栗原市消防団	岡山県	高梁市消防団
東京都	大島町消防団	広島県	呉市消防団
埼玉県	熊谷市消防団	徳島県	東みよし町消防団
山梨県	富士河口湖町消防団	香川県	直島町消防団
福井県	永平寺町消防団	福岡県	大野城市消防団
愛知県	蒲郡市消防団	大分県	由布市消防団

モデル少年消防クラブの募集

財団法人 日本消防協会

このたび、日本消防協会及び日本防火協会では、総務省消防庁、文部科学省及び関係団体と「少年消防クラブ活性化推進会議」を設置し、少年クラブの活性化のためにモデル少年クラブの募集を開始しました。詳しくは、以下の通知文、募集要綱をご覧ください。

平成22年2月8日

市町村長 殿
(消防防災担当部局)

少年消防クラブ活性化推進会議委員長
秋本 敏文

モデル少年消防クラブの選定等について

平素より、少年消防クラブの育成にご配慮頂きましてありがとうございます。

少年消防クラブの活動は、将来の地域防災さらには地域社会を担う人材育成に資するなど、その一層の活性化が今日の重要な課題となっております。

そこで、このたび、下記のとおり、国及び関係機関による「少年消防クラブ活性化推進会議」を設置し、連携協力して、モデル少年消防クラブの選定、支援等を進めることといたしました。

つきましては、この旨を貴市町村教育委員会の担当部局及び管内の少年消防クラブの代表者・指導者等に周知して頂きますとともに、消防本部、消防団や教育委員会のご意見も参酌して頂いて、適当と思われる少年消防クラブをモデルクラブとするようご推薦頂きたいと存じます。

モデルクラブは、さしあたり全国で100程度として重点的な支援をいたしたいと考えておりますので、できる限り、積極的なご対応をして頂きますようお願いいたします。

記

1 少年消防クラブの現状

我が国の少年消防クラブは、昭和25年、当時の国家消防庁の通知により発足し、平成21年5月現在、5,095クラブ、メンバー数約43万人となっている。

その活動は、発足当初、火災予防の普及徹底をもっぱらとしていたが、最近では、これにとどまらず、消火活動、救急救命技術の取得など、実践的な活動を含む幅広いものへと発展している例もみられる。しかし、一方で、活動経費の不足、専門的

な知識、技術をもつ指導者の不足、低年齢層への偏り等の課題も指摘されている。

2 少年消防クラブ活動の活性化

阪神・淡路大震災などの経験を通じて、住民の安全確保には、専門機関のみならず、地域の住民、企業、団体など幅広い主体の平時からの取組みによる地域の総合防災力が不可欠であると考えられている。少年消防クラブについては、将来の地域防災を担う人材の育成という観点とともに、中高校生などは場合により実戦力の一部になり得ることなどから、その活性化が重要な課題となっている。消防防災を通じて、異なる年齢層の仲間と共同で活動し、また地域と関わりを持つことは、青少年期の人間形成や地域社会への参加意識の醸成の面からも大きな意義がある。

海外においても、青少年消防組織が実践的な活動を活発に展開しており、メンバーの中から成人後に消防団員や消防職員となるケースが多数見られる。

総務省消防庁においては平成20年11月21日付け通知において、クラブのメンバーの年齢の上限を15歳から18歳に引き上げることを検討するよう通知したほか、平成21年度に「少年消防クラブの充実方策に関する検討会」を開催し、その中の論議では、少年消防クラブは、将来の地域防災の担い手を育てる活動として重要であり、関係機関、関係団体が連携協力して活性化方策を推進していくことが望まれるとし、また、今後、は、クラブの活動に実践的な内容を取り入れていくため、その指導には、消防職員・消防団員が参加することが望ましいとされている。

3 少年消防クラブ活性化推進会議の設置

こうした状況を踏まえ、少年消防クラブの活動及び組織の活性化方策の検討及びその推進を図る組織として、この度、総務省消防庁、文部科学省、全国消防長会、全国市長会、全国町村会、日本防火協会及び日本消防協会が参加する「少年消防クラブ活性化推進会議」を設置したところであり、有識者の協力を得ながら、当面、この会議を中心として情報交流やモデルクラブの活動支援等を行うこととしている。

4 モデル少年消防クラブの選定及び支援

少年消防クラブの活動及び組織の活性化を推進するため、全国の少年消防クラブのうち、今後、積極的な取組みをしようとするものを別紙のモデル少年消防クラブ募集要綱（以下「要綱」という。）により募集・選定し、関係機関が連携して重点的に支援することとした。この場合、モデルクラブの選定に当たっては、消防実技の体験学習など実践的な内容の活動を取り入れる意欲のあるクラブ、中学生を含むなどクラブメンバーの年齢幅が広いクラブを優先するとともに、消防実技については消防職員又は消防団員が指導するなど、指導体制の整備状況にも配慮することとした。

また、具体的な活動は、これまでの活動実績やメンバーの年齢によりそれぞれ異なると思われるが、今後の活動の円滑な展開を推進するため、中学生、高校生までが参加することも念頭において要綱別紙に活動モデルを提示することとした。モデ

ルクラブにおいては、これらを参考としてそれぞれ工夫した活動を実施することが期待される。

モデルクラブに対しては、実践的な活動を想定した新たな活動服の支給、活動用資機材の購入の助成を行うほか、全国のモデルクラブの活動状況に関する情報などを提供することとしている。

5 その他の事業

その他、モデル少年消防クラブに対する支援を中心として次のような事業を検討中である。具体的に決定し次第、通知する予定である。

① 実技指導マニュアルDVDの作成、配布

消防団員等がクラブ員等に実技等の指導を行う場合の留意点、指導要領を収録したDVDを作成、配布する。

② 指導者研修会の開催

モデルクラブの指導者等を対象とする全国研修会を開催。

③ 海外の青少年消防組織のドキュメンタリーDVDの作成、配布

活発な活動をしている海外の事例を紹介する

④ ニュースレターの発行

少年消防クラブの全国的な動き、各地の少年消防クラブの活動状況等、全国的な情報の交流を図るため、ニュースレターを発行する。

〔連絡先〕 少年消防クラブ活性化推進会議事務局

日本消防協会国際部 三宅 電話：03-3503-3053 FAX：03-3503-1480 電子メール： k-miyake@nissho.or.jp	日本防火協会 水村 電話：03-3591-7121 FAX：03-3503-1480
--	--

<本文書は（財）日本消防協会ウェブサイトからダウンロードできます。>

（財）日本消防協会ウェブサイト <http://www.nissho.or.jp/>

モデル少年消防クラブ募集要綱

1 応募する少年消防クラブ

応募する少年消防クラブは、次のような活動を行うものであること。

①少年消防クラブとして別紙の少年消防クラブ活動モデルに掲げるものなどを含めて活発に活動することとしており、特に消防・防災の実技体験についても積極的に取り組もうとするものであること。そのため、消防防災の実技については消防職員、消防団員による指導が行われることとされていること。

②クラブメンバーには、中学生以上が加入しており、あるいは加入を予定しているものであること。

2 応募手続き

市町村は、管内に応募しようとする少年消防クラブがあるときは、別紙申出書に必要な事項を記入し、都道府県消防協会に提出すること。

都道府県消防協会は、市町村の申出を取りまとめ、少年消防クラブ活性化推進会議（以下、「推進会議」という。）に提出すること。

3 応募期限

市町村は、平成22年3月20日までに都道府県消防協会に申出書を提出し、都道府県消防協会は、推進会議に平成22年3月31日までに提出すること。

4 モデル少年消防クラブの決定

推進会議は、平成22年4月末までにモデル少年消防クラブを決定し、都道府県消防協会を経由して申出のあった市町村に通知すること。

5 モデル活動の期間

平成22年4月1日から平成24年3月31日までの2年間とすること。

6 モデル少年消防クラブの活動状況に関する情報提供

推進会議は、モデル少年消防クラブの活動状況に関する情報を収集して、全国のモデルクラブに提供するものであること。

参考

モデル少年消防クラブに対する支援

(1) 活動服の支給

モデル少年消防クラブに、別紙に示す活動服を交付する。

(2) 資機材等の購入助成

モデル少年消防クラブの活動に必要な別紙に掲げる資機材等の購入について、市町村に対し助成する。原則として助成率は全額、合計助成額は1クラブ当たり100万円以内とするが、全国の要望状況によっては、助成率や助成額を変更することがある。

(3) 実技指導マニュアルの交付

モデル少年消防クラブの指導者が、クラブ員に実技等の指導を行う場合の留意点、指導要領を収録したDVDを交付する。

(4) 指導者研修会の開催

モデル少年消防クラブの指導者に対する全国研修会を開催する。（宿泊・交通費を支給）

別紙

少年消防クラブ活動モデル

	項目	項目
① 消防・防災についての学習	消防機関や関係団体の活動	消防機関等の活動を学習するため、消防関係施設を訪問し、消防職員、消防団員、婦人防火クラブ員、自主防災組織や災害ボランティア団体のリーダーなどから活動状況の説明を受ける。また、活動状況等の見学、同行などして学習する。
	災害の知識	災害（風水害、地震、津波、高潮、土砂災害等）の種類、特徴、しくみを知り、過去の災害の経験を学び、災害に備えるため、日頃から必要なことがらを学ぶ。インターネット（「eカレッジ」、「消防防災博物館」等）も活用する。
	地域を知る	防災探検隊、防災マップの作成を通じて、地域の危険な個所、避難場所等を知る。
② 消防・防災の実技体験	通報	火災、救急時に119番通報をするとき、伝えるべき事項を体験し学ぶ。
	避難	災害に遭遇した場合、どのような方法でどこに避難するのか体験する。
	初期消火	(1) 消火器を使って消火の体験をする。
		(2) 小型動力ポンプ（D級ポンプ等）を使って消火の体験をする。
		(3) 学校等の屋内消火栓を使って消火の体験をする。
	救助	ボールや小型ジャッキ、スコップ等学校や家庭にある身近な道具を用いた救助方法を体験する
	応急手当	止血法、心肺蘇生法（心臓マッサージ、人工呼吸、AED等）、簡易担架による搬送などを体験する。
図上訓練	DIG、クロスロードなどの災害図上訓練を体験し、災害時の対応について学ぶ。	
避難所体験	キャンプでの炊飯、宿泊など避難所での生活に近似する体験を通じて、避難所での生活や運営を知る。	

（注1）モデルクラブにおいては、これらのモデルからその実情に応じた活動内容を実施してください。反復して学習・体験することとし、特に消防実技については反復練習によって技術レベルを高めるよう努めてください。

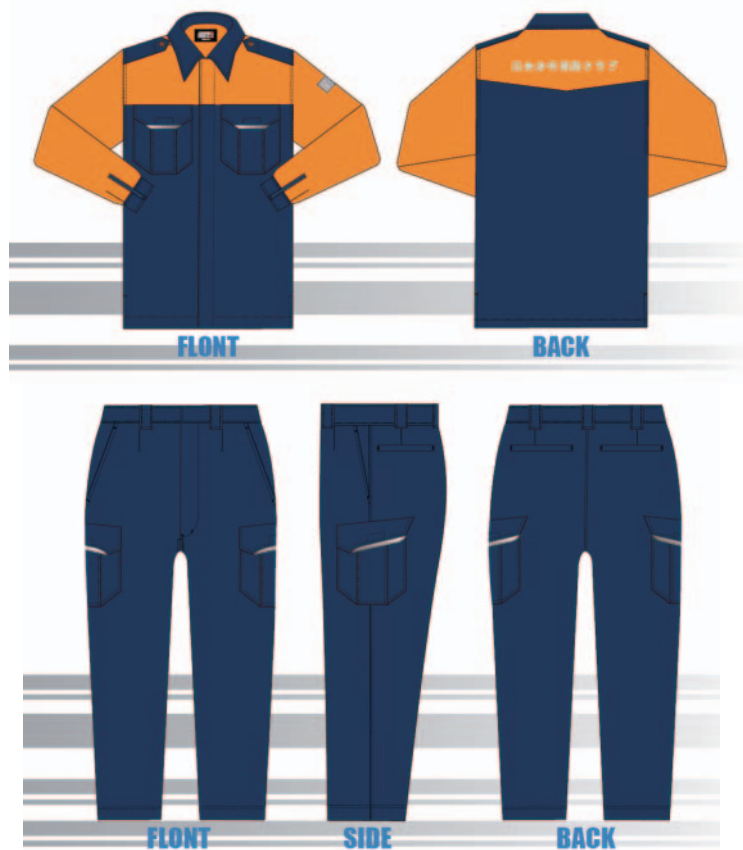
（注2）総務省消防庁において防災教材「チャレンジ！防災48」を作成・配布することとしていますので、これも参考にしてください。下記アドレスでご覧いただけます。
http://www.fdma.go.jp/html/life/pdf/bousaikyouzai/01_bousaikyouzai.pdf

助成する資機材一覧

資機材	
<初期消火用資機材>	D級小型可搬式ポンプ
<災害救助用資機材>	
	救助工具収納箱
	ヘルメット
	手袋
	防煙マスク
	ハンド型メガフォン（トラメガ）
	リヤカー（ノーバンク）
	一輪車
	脚立
<救急救命資機材>	
	人体モデル（ケース付）
	AEDトレーナー
	付属消耗品（三角巾、マスク、洗浄綿）

助成する資機材一覧

※支給する活動服には、左袖のマジックテープ（ワッペン貼付用）及び背文字（日本少年消防クラブ）はありません。



都道府県における消防操法大会の結果

財団法人 日本消防協会 都道府県消防協会

平成21年度の都道府県消防操法大会は、5月17日の岡山県消防操法大会を皮切りに、全国26都道府県において開催されました。

日本消防協会では、消防団員の消防技術

の錬磨と士気高揚を目的に、全国で開催される消防操法大会に要する経費について、財団法人JKAの援助を受けて交付しています。各都道府県大会の開催結果は、次のとおりです。

☆北海道

7月23日（木）北海道消防学校

小型ポンプ操法の部

【優勝】

岩見沢地区消防事務組合岩見沢消防団

【準優勝】 深川地区消防組合北竜消防団

【優良賞】 東十勝消防事務組合浦幌消防団
檜山広域行政組合上ノ国町消防団

今年の操法訓練大会は、小型ポンプ操法で行われ、地方支部から12消防団が出場して技を競いました。絶好のコンディションの中、全道から集合した各消防団の出場団員とともに、応援に燃える関係者や家族などが続々と集まりました。

午前9時55分より競技が開始され、審査員が厳しく見守る中、日頃鍛え上げたきびきびとした動作で、技の正確さと安全性、

そして速さを競い合い、12消防団の操法訓練が終了しました。昼休みには、札幌市消防音楽隊とカラーガーズ隊「リリーエンジェルス」によるアトラクションが行われました。12時50分より閉会式が行われ、優勝、準優勝、優良賞の各団へ表彰を行い、北海道消防操法訓練大会は終了しました。



☆秋田県

9月3日（木）秋田県消防学校

ポンプ車操法の部

【優勝】 大潟村消防団第3分団

小型ポンプ操法の部

【優勝】

由利本荘市消防団鳥海支団第3分団

【総合優勝】 男鹿潟上南秋支部

第46回秋田県消防操法大会は平成21年9

月3日（木）由利本荘市の秋田県消防学校で行われました。県内9支部の予選を勝ち抜いた小型ポンプ操法の部9分団、ポンプ車操法の部7分団が出場し、白熱した戦いが展開された。また、競技終了後、第19回全国女性消防操法大会に本県代表として出場する秋田市女性消防隊が軽可搬ポンプ操法を披露しました。



☆山形県

7月26日（日）～9月13日（日）

各地区優勝チーム

支部名	ポンプ車操法の部	小型ポンプ操法の部
東南村山	山形市消防団	中山町消防団
西村山		西川町消防団
北村山	村山市消防団	大石田町消防団
最上		大蔵村消防団
東南置賜	高島町消防団	米沢市消防団
西置賜	白鷹町消防団	白鷹町消防団
庄内	鶴岡市消防団	鶴岡市消防団

消防団員の消防操法の技術向上と士気高揚のために、山形県と山形県消防協会との共催により、山形県消防協会の支部ごとに会場をかえ、ポンプ自動車の部26隊156名、小型ポンプの部52隊270名の出場隊員により、山形県消防操法実施要領（全国消防操法実施要領と同じ）により水出し消防操法を実施しました。

☆新潟県

8月2日（日）新潟テルサ前駐車場

ポンプ車操法の部

【優勝】新潟市消防団西方面隊

小型ポンプ操法の部

【優勝】長岡市消防団長岡西部方面隊

昭和25年新潟市からスタートした本大会も第60回を迎え再び新潟市での会場開催となりました。県内各地から選抜されたポンプ車操法の部9チーム・小型ポンプ操法の部18チーム合計27チームの選手約140名が参加し、約2,000人の関係者等が見守る中、日頃の訓練成果を発揮し、熱戦が繰り広げられました。

優勝チームは、ポンプ車・小型ポンプと

もに昨年に続き2連覇となりました。

また、10月開催の全国女性消防操法大会に出場する佐渡市南佐渡女性消防隊のポンプ操法も披露され、多くの声援と激励を受けました。



☆東京都

10月10日（土）東京都渋谷区 東京消防庁消防学校

ポンプ車操法の部

【優勝】福生市消防団
可搬ポンプ操法の部

【優勝】 大森消防団

都内各地域の代表として特別区から15団、多摩・島しょ地区から9団の計24団が参加して、第39回東京都消防操法大会が開催されました。長期にわたる厳しい訓練に耐え抜いた各チームが、「優勝」の二文字を目指して規律・技・速さを競い合いました。



た。会場は、操法の指導者や先輩・後輩、選手を支えてこられた家族や地元の応援者などによる盛大な声援も相まって熱気あふれる大会となるとともに、各地域から集まった消防団員の情報交流の場ともなりました。



☆千葉県

**7月25日（土）千葉県消防学校
ポンプ車操法の部**

【優勝】 いすみ市消防団

小型ポンプ操法の部

【優勝】 市原市消防団

第45回千葉県消防操法大会は、真夏の暑い天気の中、森田知事をはじめ県内の消防関係者や応援の家族等を含め約2,000名が

参加して盛大に開催され、県内の各支部（10支部）から厳しい予選を勝ち抜いてきた、ポンプ車操法の部12チーム、小型ポンプ操法の部12チームが出場して日頃の訓練の成果を競い合いました。会場には各出場チームのテントが立ち並び、必勝祈願の幟旗が翻って、それぞれ自分の団のチームに対し、盛大な歓声を挙げ、応援も盛り上がっていました。



☆茨城県

9月26日（土）～10月18日（日） 茨城県消防学校ほか

60回目の節目を迎えた茨城県消防ポンプ操法競技大会は、昨年度までの県内7地区開催を6地区に変更し、ポンプ車操法51隊、

小型ポンプ操法27隊、合計78隊441名が参加して盛大に開催されました。また、今年度は来年度開催される第22回全国消防操法大会への出場をかけて、県内6地区のポンプ車操法の部優勝チームによる県代表選考会が11月14日（土）、県立消防学校において開催され、常総市石下消防団が優勝し、全国大会への出場切符を手に入れました。

各地区優勝チーム

支部名	ポンプ車操法の部	小型ポンプ操法の部
県央	笠間市	小美玉市玉里
県北	ひたちなか市	大子町
鹿行	潮来市	行方市
県南北部	つくばみらい市	土浦市
県南南部	取手市	守谷市
県西	常総市石下	



☆山梨県

9月6日（日）山梨県消防学校

ポンプ車操法の部 【優勝】南アルプス市
小型ポンプ操法の部 【優勝】甲州市消防団

第45回山梨県消防操法大会は好天に恵まれ、国会議員等多くのご来賓と1,300人の消防団員等が参加する中で開催されました。午前10時から15チームによる競技が開始され、各支部の熱い声援の中、日頃の訓練の成果が披露されました。

優勝チームは、ポンプ車が昨年全国大会

に出場した南アルプス市消防団が、また、小型ポンプは本年4月の林野火災対応で日消から災害対策支援金をいただいた甲州市消防団でした。競技終了後、各団では、それぞれが長く厳しい訓練を続けてきた選手達の労をねぎらうとともに、成果を讃え合っていました。山梨は人口10万人当たりの消防団員数が全国の平均の約2.6倍。消防技術の向上を目指し、これからも、よりよい消防操法大会となるよう努めていきたいと思ひます



☆長野県

8月2日(日) 須坂市臥竜「県民須坂運動広場」他

ポンプ車操法の部 【優勝】 上田市消防団

小型ポンプ操法の部 【優勝】 上田市消防団

長野県と(財)長野県消防協会の共催による第51回長野県消防ポンプ操法大会が、県下13地区から選抜された、ポンプ車操法の部12チーム96人、小型ポンプ操法の部13チーム88人、女性消防隊による模範操法27人、消防団ラッパ隊広域交流会参加者120人、同時に開催された第18回長野県消防ラッパ吹奏大会には13チーム287人、大会関係者410人、観客2,800人で盛大に開催されました。開催当日は朝から雨模様で時折激しく降る中、ぬかるみで足元が滑るのを警戒しながら緊張感あふれる大会となりました。また、全国初の消防団ラッパ隊広域交流会

が操法大会に合わせ開催されました。参加チームは長野県及び近隣県の消防団ラッパ隊4隊で、大勢の消防団員や一般来場者が見守る中、群馬県中之条町消防団は消防ラッパ譜を中心に、富山県南砺市消防団は主に長野県消防ラッパ教本の中から、愛知県新城市消防団はドリルを、昨年県大会優勝の長野県須坂市消防団は日頃から練習している大会用の曲を、次々に披露し、観客からは大きな拍手がおくられました。



☆福井県

7月18日(土) 福井県消防学校

ポンプ車操法の部

【優勝】 福井市消防団 岡保分団

小型ポンプ操法の部

【優勝】 福井市消防団 殿下分団

福井県と当協会の共催で毎年開催していますが、数日前からの雨によりグラウンドコンディションが悪く、雨天練習場での開催になりました。御臨席いただいた日本消防

協会の片山会長から、激励の言葉をいただいた出場選手達は、ますます士気が高揚し白熱した競技が繰り広げられました。9地方消防協会から選出された、ポンプ車7チーム・小型ポンプ8チームが力一杯、日頃の訓練の成果を発揮し、地元の応援者や消防関係者の声援が飛び交うなか、悪天候を吹き飛ばす大いに盛り上がった大会となりました。

☆石川県

7月25日(土) 石川県消防学校

ポンプ車操法の部

【優勝】 能登町消防団 三波分団

各地区連合訓練大会において上位入賞した代表18分団が県大会に出場しました。開会式において、平成12年度より消防団員を雇用している協力事業所に対し石川県知事から感謝状が8団体に贈呈されました。引き続き、ポンプ車操法の競技が開始され、各分団は早朝から雨の降る中、地区の名誉

をかけてのぼり旗など、華々しい応援団の声援の中、日頃の訓練成果を遺憾なく発揮し、白熱した活気あふれる競技を繰り広げました。競技終了後、第19回全国女性消防操法大会に出場する津幡町東荒屋女性消防隊による模範操法が披露され、拍手喝采を浴びていました。また、来年愛知県蒲郡で開催の全国消防操法大会小型ポンプの部に出場する隊の抽選会も行われ、野々市町消防団第2分団が出場することに決定しました。



☆富山県

7月25日（土）富山県消防学校
ポンプ車操法の部

【優勝】富山市消防団草島分団
小型ポンプ操法の部

【優勝】富山市消防団細入南分団

富山県と富山県消防協会の共催により開催している、富山県下消防団消防操法大会も第60回を迎えました。ポンプ車操法の部に21チーム、小型ポンプ操法の部には12チ



ームが参加して盛大に開催され、連日の厳しい暑さの中で積んできた訓練の成果をいかんなく発揮する姿に、応援席、見学者から大きな声援が送られ競技が練りひろげられました。小型ポンプの部で富山市消防団細入南分団が3年連続優勝する白熱した大会となりました。また、全国女性消防操法大会に出場する魚津市女性消防隊が特別参加して操法を披露して素晴らしい大会となりました。

☆愛知県

8月8日（土）岡崎中央総合公園「運動広場」

ポンプ車操法 【優勝】知多市消防団
小型ポンプ操法【優勝】豊田市消防団

愛知県では消防団員の士気高揚と日頃の訓練成果を発揮するため昭和31年度からポンプ車操法、小型ポンプ操法の二種目で消防操法大会を開催しています。会場は尾張地区・三河地区の持ち回りとし、今大会は三河地区での開催により岡崎市において第54回目の大会を実施しました。

大会当日は2,000人以上の応援者が見守る中、ポンプ車操法20団、小型ポンプ操法

14団の合計34団が日頃の訓練の成果を十二分に発揮し、消防団員の消防技術の向上と団結力の強化が図られました。



☆静岡県

7月18日（土）静岡県小笠山総合運動場

ポンプ車操法の部 【優勝】富士市消防団
小型ポンプ操法の部【優勝】富士市消防団

明け方まで雨が残り心配されましたが、

幸い日中は曇り空という天候の中で行われました。今年は暑さ対策として、レーンを従来の各2レーンから各5レーンと増やし、午前中で競技を終えることとしましたが、概ね好評でした。競技は、各地から駆

つけた、大勢の応援団の熱い声援の中で行われ、富士市消防団のダブル優勝という結果になりました。競技後は、特別演技と



して、袋井市消防団ラップ隊によるドリル演奏が行われ、見事な演奏に会場から大きな拍手が送られました。



☆大阪府

9月6日(日)万博記念公園おまつり広場
ポンプ車操法の部 【優勝】忠岡町消防団
小型ポンプ操法の部【優勝】柏原市消防団
【総合優勝】中河内地区支部

大阪府と大阪府消防協会との共催により実施している本操法大会も第53回を迎え、片山日本消防協会会長のご臨席をいただき開催しました。



各地区支部から選抜された14消防団が、2,600名余の来場者が見守る中、日頃の厳しい訓練の成果を発揮して熱気あふれる競技を繰り広げました。

当日は、朝からうだるような暑さで厳しい一日となりましたが、大会当日は、関係者のご協力もあって、全競技も無事に終わることができ、本大会を通じて消防技術の向上と士気の高揚が図られました。



☆滋賀県

8月9日(日)滋賀県消防学校屋外訓練場
ポンプ車操法の部
【優勝】甲賀市消防団B
小型ポンプ操法の部
【優勝】甲賀市消防団B

第44回を迎えた滋賀県消防操法大会は、

当初の開催予定日(8月2日(日))が、气象台の観測史上もっとも遅いツユ明けの前日で、各地での警報発令、しかも本会場も激しい雨の中、水浸しの状態ということも重なり、はじめての順延開催となりました。大会当日もしばしば雨降る中の開催となりましたが、ポンプ車操法の部に15隊、

小型ポンプ操法の部に14隊（新型インフルエンザの影響を受けて1隊が出場辞退という状況になった）が出場し、2,000人を超える観衆が見守る中、地元の高い期待と熱い



声援を背に受け、選手たちは日頃の厳しい訓練の成果を思う存分発揮し、まさに「切磋琢磨」の場としての意義深い大会となりました。



☆鳥取県

7月19日（日）鳥取県消防学校

ポンプ車操法【優勝】北栄町消防団

小型ポンプ操法【優勝】三朝町消防団

時折雨の降る中での開催となりましたが、ポンプ車操法の部12隊、小型ポンプ操

法の部9隊の出場で、日ごろの成果を競い合い、熱のこもった大会となりました。また、本年度開催の第19回全国女性消防操法大会に出場する琴浦町女性消防隊が軽可搬ポンプ操法を披露し、大会に華を添えていただきました。



☆島根県

8月9日（日）大田運動公園 多目的広場

ポンプ車操法の部

【優勝】松江市消防団玉湯方面団

小型ポンプ操法の部

【優勝】江津市消防団

第53回島根県消防操法大会には、ポンプ車の部に11隊、小型ポンプの部に24隊が出場し、約1,700名の観衆が見守る中、日頃

の訓練の成果を十二分に発揮し、規律、技、速さを競い合い、活気ある大会となりました。昼休みには、第19回全国女性消防操法大会に県代表として出場する津和野町女性消防隊の訓練披露が行われ、会場は大いに盛り上がりました。また、小型ポンプ操法の部で優勝した江津市消防団が、初の全国消防操法大会出場権を獲得しました。



☆岡山県

5月17日（日）岡山県消防学校

ポンプ車操法の部【優勝】和気町第4分団
小型ポンプ操法の部

【優勝】和気町第2分団

今大会は、備前地区、備中地区、美作地区の3地区から11チームずつ出場。さらに前回、優勝した市町村のシード枠2チームを合わせた35チームの出場となり、前回と同数の最大規模の大会になりました。

ポンプ車操法の部（17チーム）、小型ポ

ンプ操法の部（18チーム）に分かれ、所要時間・操法の的確性などを競いました。

昼休み時には、岡山市消防音楽隊の演奏に合わせカラーガード隊「ピーチ・フェアリーズ」（桃の妖精）によるリズムカルなフラッグ演技が披露されました。

なお、ポンプ車・小型ポンプ操法の部で優勝した和気町消防団は、平成19年度に開催される第54回県大会のシード出場権（2）を獲得しました。

☆広島県

9月9日（水）広島県消防学校グラウンド

小型ポンプ操法の部

【優勝】福山市消防団

広島県と広島県消防協会主催の小型ポンプ操法競技大会が広島県消防学校グラウンドで盛大に開催されました。

県内19支部から選抜された24チーム168名の選手が炎天下、選手や応援の家族等



1,500名が見守る中、全国小型ポンプ操法競技大会の出場権と支部の名誉をかけて日頃の訓練の成果を披露しました。

この競技は、小型ポンプ操法に関する技術を競うもので、操作要領・行動・動作・動作全般及び有効放水所要時間について審

査採点し、総合得点の多いチームを優位とします。

審査の結果、福山市消防団が優勝し、平成22年愛知県蒲郡市で開催される全国大会に出場します。

☆山口県

9月19日（土） 山口県消防学校

基本操法ポンプ車の部

【優勝】萩市消防団

基本操法小型ポンプの部

【優勝】山口市消防団B

応急操法ポンプ車の部

【優勝】岩国市消防団由宇方面隊第2分団

応急操法小型ポンプの部

【優勝】宇部市消防団東部方面隊西岐波分団

女性軽可搬ポンプ基本操法の部

【優勝】和木町消防団

山口県、山口県消防協会及び山口県消防クラブ連合会の主催のもとで開催された本大会は、今年で56回目を迎え、第27回女性消防操法大会と併せ、参加者約千五百名のもと盛大に行われました。また、開会式に先立ち、消防殉職者慰霊祭が操法大会出場

者参加のもと、厳粛に挙行されました。

今年は17市町から、基本ポンプ車操法6隊、基本小型ポンプ操法17隊、応急ポンプ車操法7隊、応急小型ポンプ操法10隊及び女性軽可搬ポンプ基本操法1隊の5部門、計41隊が出場しました。当日は、晴天で大変残暑が厳しく、また本州東方沖を通過した台風14号の余波から、時折強い風の吹く一日となりましたが、競技進行上大きな支障もなく、競技が始まると、応援の家族、団員から盛んな声援が飛び交い、各選手は日頃の訓練成果を遺憾なく発揮されました。

また、閉会式前には、本年度の全国女性消防操法大会の山口県代表として出場する「下関市女性消防隊」が模範演技を披露しました。なお、本県では基本操法のほか、当県だけと自負しております応急操法も併せて行っています。



☆香川県

9月13日（日）香川県消防学校放水訓練場
ポンプ車の部

【優勝】さぬき市消防団長尾方面隊

小型ポンプの部

【優勝】坂出市消防団林田分団

毎年実施しており、今回で37回目となります。県内10地区の代表消防団が、互いに

競い合い、日ごろの厳しい訓練の成果を存分に発揮し、消防操法技術の向上と消防団員の士気の高揚が大いに図られました。例年、千人以上の消防関係者が集まり、熱気に満ちた大会となっています。また、今年には高松市消防団ラッパ隊の演奏があり、大



会を盛り上げてくれました。平成17年4月に開校した消防学校を会場とした大会で、また、防災センターを併設していることから、消防関係者以外の一般見学者も多く、盛会に終了しました。



☆高知県

10月4日（日）高知県消防学校
ポンプ車操法の部【優勝】いの町消防団
小型ポンプ操法の部
【優勝】仁淀川町消防団
総合の部【優勝】仁淀地区

大会当日は、950人が参加し、秋の空が青々と晴れ渡った「操法大会絶好の日和」の下、盛大に開催されました。今回の大会には、日本消防協会の片山虎之助会長にご出席をいただき、選手をはじめ消防関係者の緊張感と規律の基に操法大会が開催でき、大会は一段と盛り上がりました。出場選手の力いっぱい競技はみんなに感動を与え、消防団員の誇りと名誉に歓喜したこ

とは、高知県消防操法大会に大きな歴史を残すことになりました。なお、ポンプ車操法の部で優勝した「いの町消防団」は、来年度愛知県蒲郡市で開催される全国消防操法大会の出場権を得られました。



☆佐賀県

8月2日（日）有明佐賀空港多目的広場

訓練礼式の部【優勝】鹿島市消防団

小型ポンプ操法の部【優勝】玄海町消防団

第30回佐賀県消防操法大会は、雨のために1週間順延しての大会開催となりました。大会当日は、天気にも恵まれ、家族や消防関係者のほかにも多くの一般見物客も来場され、盛大な大会となりました。大会は、佐賀市消防団大和支団ラッパ隊による演奏のもと、総括指揮者を先頭に1,000人の団員が各地区協会ごとに堂々の入場行進を行い、開会式が挙行されました。競技は、最初に各地区消防協会を代表しての出場隊4隊による訓練礼式の部が行われ、それぞれ

通常点検と小隊訓練の停止間及び行進間における諸動作について、日ごろの鍛錬の成果を競い合いました。次に、各地区から選抜された出場隊10隊による小型ポンプ操法の部の競技が行われました。今年の大会は、従来同一年度に行っていた全国大会予選を、全国大会に向け十分な準備期間を確保するため、1年前倒しての最初の大会です。優勝隊は、来年愛知県蒲郡市で開催される全国大会へ佐賀県代表として出場することになります。各出場隊とも日ごろの練習の成果を発揮し、速さと動作の正確性を競い合う大接戦となりましたが、最後に出場した玄海町消防団が見事優勝し、全国大会への出場権を獲得しました。



☆熊本県

8月23日（日）下益城郡城南町、火の君

総合文化センター特設会場

軽可搬ポンプの部

【優勝】美里町女性消防隊

【準優勝】宇土市女性消防隊

【第3位】城南町女性消防隊 B

【第3位】人吉市女性消防隊

【第3位】城南町女性消防隊 A

熊本県消防協会では、県内の女性消防団員数が500名を突破したことを契機に女性消防隊の消防技術の向上と士気の高揚を目



的に、日本自転車振興会の援助を受けて記念すべき第1回熊本県女性消防操法大会を開催しました。この大会は、来る10月22日（木）横浜市消防訓練センターで開催される第19回全国女性消防操法大会の選考会も兼ねており、各消防協会10支部から12団体（隊）が地域の代表として出場、選手をは

じめ応援団や関係者など約1,200人が見守る中、観衆と一体となって熱戦が繰り広げられました。当日は、灼熱の太陽が降り注ぐ中、どのチームも長期間の厳しい訓練に耐え抜いた素晴らしい訓練の成果を存分に発揮し、女性消防隊の技術の向上に大いに役立った意義深い大会となりました。

☆沖縄県

10月22日（木）沖縄県消防学校

ポンプ車操法の部 【優勝】名護市消防団

小型ポンプ操法の部【優勝】那覇市消防団

女性小型ポンプ操法の部

【優勝】比謝川行政事務組合ニライ消防団

応用操法の部【優勝】浦添市消防団

台風20号が台湾近くで停滞している間に、曇り空の下、12:00に開始、一滴の降雨もなく16:30に終了できました。第3回

目を迎えた女性小型ポンプ操法の部は、主力選手の故障等で3チームしか出場がなかったにも関わらず、支部大会2位のニライ消防団が華やかな声援に後押しされ見事逆転優勝しました。離島地区支部は、前回は参加がなかったところ、久米島町消防団がポンプ車操法の部に出場、北部の離島3村を代表して伊平屋村消防団が応用操法の部に出場し、それぞれ健闘しました。



<p>子供の発明 × KEIRIN</p>	<p>盲導犬 × KEIRIN</p>	<p>再生水 × KEIRIN</p>
<p>オリンピック × KEIRIN</p>	<p>RING!RING!プロジェクト、はじまる。</p> <p>夢に向かってがんばる人たちの思いと、それを応援するケイリンの思い。 2つの思いが自転車の両輪となって、走ってゆく未来に導いてくれるように。 みんながやりたいことをかなえ、もっと笑顔の輪が広がっていくように。 ケイリンの補助事業は「RING!RING!プロジェクト」に生まれ変わります。</p> <p>Ring! Ring!</p> <p>RING!RING!プロジェクト 競輪補助事業ホームページ http://ringing.keirin.go.jp/ <small>日本自転車振興会 〒102-4011 東京都千代田区六番町4-6 機械工業振興部 / 03-3512-1273 公益事業部 / 03-3512-1276</small></p>	

都道府県消防操法大会は競輪補助事業として実施しています

第36回消防団幹部特別研修結果について

財団法人 日本消防協会

1月19日（火）から22日（金）までの4日間、日本消防会館において、第36回消防団幹部特別研修を開催しました。

この研修は、消防団の災害対応能力の向上と活性化を図るため、消防団の上級幹部に対し、消防行政全般にわたる高度な研修を行い、幹部として必要な知識を習得させ、地域消防団の指導者を養成するもので、研修対象者は各都道府県の消防団長及び副団長の中から選考された47名です。

開講式には、秋本理事長、河野消防庁長官

が挨拶された後、研修生を代表して、東京都神田消防団中田団長が「幹部としての自覚を持って行動を律し、研鑽に努めることを誓います」と宣誓をしました。

また、閉講式では、修了証及び修了記章が授与された後、秋本理事長、消防庁の武居国民保護・防災部長が挨拶され、短期間ではありますが、消防団が直面している課題等、情報の共有化を図ることができた有意義な研修となりました。

4日間の研修内容は次のとおりです。



開講式 河野消防庁長官の挨拶



研修風景



第二方面消防救助機動部隊
(ハイパーレスキュー) 視察風景



閉講式

第36回消防団幹部特別研修 研修科目

1日目 【平成22年1月19日（火）】

時 間	時間数	区分・科目	概要・講師
12：30～14：00	90	受付等	5階大会議室
14：10～15：10	60	開講式	5階大会議室
15：20～15：50	30	オリエンテーション	事務局
16：00～16：50	50	理事長講話	日本消防協会 理事長 秋本 敏文
16：50～17：00	10	諸連絡	事務局

2日目 【平成22年1月20日（水）】

時 間	時間数	科 目	講 師
9：00～9：50	50	女性消防団活動	東京都赤羽消防団 分団長 小澤 浩子
10：00～10：50	50	消防行政	総務省消防庁 国民保護・防災部長 武居 丈二
11：00～11：50	50	消防団実務	東京消防庁 防災部長 大江 秀敏
12：00～13：00	60	昼 食	
13：00～15：50	170	危機管理	Blog防災・危機管理トレーニング 主宰 日野 宗門
16：00～16：50	50	課題研究討議	日本消防協会 業務部担当
16：50～17：00	10	諸連絡	

3日目 【平成22年1月21日（木）】

時 間	時間数	科 目	講 師
9：00～9：50	50	消防団活動事例	岩手県一関市消防団 団長 大森 忠雄
10：00～10：50	50	防災対策	総務省消防庁 防災課長 飯島 義雄
11：00～11：50	50	日本の救急医療の問題点	聖路加国際病院 理事長 日野原 重明
11：50～12：00	10	諸連絡	事務局
12：00～13：00	60	昼 食	
13：00～13：50	50	課題研究討議	日本消防協会 業務部担当
14：00～14：50	50	消防団運営	総務省消防庁 対策官 田中 勝久
15：00～17：00	120	東京消防庁 第二消防方面本部 第二方面消防救助機動部隊 (ハイパーレスキュー) 視察	

4日目 【平成22年1月22日（金）】

時 間	時間数	科 目	講 師
9：00～9：50	50	住宅用火災警報器普及啓発	日本火災報知機工業会
10：00～10：50	50	火災防ぎょ	東京消防庁 参事兼警防課長 松浦 和夫
11：00～11：50	50	課題研究発表	総務省消防庁 対策官 田中 勝久
11：50～12：40	50	昼 食	
12：40～12：55	15	閉講式リハーサル等	事務局
13：00～13：30	30	閉講式	5階大会議室

「消防団員入団促進キャンペーン」の実施

総務省消防庁 防災課

地域防災の要、消防団員の退団が毎年3月末から4月にかけて多い状況を踏まえ、消防団員を確保する必要があることから、消防庁では、退団が集中する時期に備えて1月から3月までをキャンペーン期間として位置付け、「消防団員入団促進キャンペーン」を実施しています。

このキャンペーンを全国的な取組とし、特に、被雇用者、女性及び大学生等を対象とした入団促進に取り組んでいただくよう各都道府県知事及び各市町村長（指定都市市長を除く市町村長へは都道府県知事を経由）に対し、消防庁長官から「「消防団員入団促進キャンペーン」に基づく広報の推進について（通知）」（平成21年12月14日付け消防災第478号）を发出了しました。

本通知では、広報誌、ケーブルテレビ及びホームページ等のあらゆる広報媒体を通じて、効果的な広報を推進していただくとともに、キャンペーン期間中に開催される各種イベント等において、消防庁作成の「消防団員入団促進ポスター（51万枚）」、「消防団PRビデオ（DVD8,500枚）」及び「消防団員入

団促進パンフレット（40万部）」等を活用した消防団員募集の広報を推進していただくようお願いしています。

消防庁では、特に、増加傾向にある女性の消防団員を更に増加させ、目標である10万人の確保に向けた各市町村等の取組を強力に支援するため、女優の星野真里さんを入団促進ポスターのモデル及びPRビデオのMCに起用し、若者や女性向けのPRに重点を置くとともに、昨年度に引き続き女性消防団員入団促進キャンペーンイベントを実施することとしています。皆様の本イベントへのご参加をお待ちしています。

これからも地域の幅広い層から職業、年齢、性別を問わず、多くの方々が消防団に参加されることを期待しています。



消防団員入団促進ポスター



消防団PRビデオ



消防団員入団促進パンフレット

平成22年春季全国火災予防運動の実施

総務省消防庁 予防課

「消えるまで ゆっくり火の元 にらめっ子」を全国統一防火標語に掲げ、3月1日（月）から7日（日）までの7日間、全国火災予防運動が実施されます。

火災予防運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図り、もって火災の発生を防止し、高齢者等を中心とする死者の発生を減少させ、財産の損失を防ぐことを目的として、毎年、消防記念日を最終日とする一週間に実施しているものです。

平成20年中、全国で5万2,394件の火災が発生し、1,969人（うち住宅火災（放火自殺者等を除く）は1,123人）の方が亡くなっています。

一人ひとりが防火の重要性を自覚し、日常生活での防火を実践することにより、火災による死傷者や財産の損失を防ぎましょう。

また、例年どおり、春季全国火災予防運動と同時期に「全国山火事予防運動」及び「車両火災予防運動」も併せて実施します。

1 重点項目

(1) 住宅防火対策の推進

新築住宅については、すでに住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の設置が義務化されており、既存住宅においても一部の地域では設置義務化が始まっています。適用開始前の地域を含めて、普及状況の把握を進め、十分に普及が進んでいない場合には、住警器の早期設置の促進を強力に図ることとします。

また、住警器の設置促進について、消防機関に限らず、関係行政機関、関係団体、関係業界等、幅広い分野のあらゆる主体が総力を結集して国民運動的に取り組むべきであることを示した「住宅用火災警報器設置推進基本方針」（平成20年12月17日住宅用火災警報器設置推進会議決定）に基づいて住警器の早期普及に係る取組を強力に推進することとします。

(2) 放火火災・連続放火火災防止対策の推進

平成20年中の放火及び放火の疑いによる火災は1万776件となっており、全火災件数5万

2,394件のうち約2割を占めています。こうしたことから「放火火災防止対策戦略プラン」を積極的に活用し、放火火災に対する地域の対応力を向上させるものとします。また、パチンコ店及び物品販売店舗等については死角となりやすい箇所の可燃物の整理整頓、避難経路の確実な確保等について積極的に指導するものとします。

(3) 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底

福祉施設等の火災を踏まえ、特定防火対象物等における防火管理体制等の指導を行うとともに、消防用設備等の維持管理や防災物品の使用徹底を図ることとします。

また、違反のある防火対象物に対する違反是正指導では、関係機関等との連携を強化し、総合的な防火安全対策の徹底を図ることとします。

(4) 製品火災の発生防止に向けた取組の推進

消費者の安心・安全の確保が強く求められていることを踏まえ、電気用品、燃焼機器、自動車等の火災の発火源となることが多い製品について、適切な使用・維持管理の呼びかけに併せて、各種機関の収集情報等を参考とし、注意情報を発信することとします。

(5) 林野火災予防対策の推進

林野火災の出火原因としては、たき火、たばこ及び火入れによるものが約半数を占めています。火入れに際しての手続きの徹底、林野周辺住民及び入山者等の防火意識の高揚、火災警報発令中における火の使用制限の徹底等について、重点的に指導を行うものとします。また、林業関係者とも連携を密にし、地域の実情に即した火災予防対策を講ずるよう努めるものとします。

2 重点推進項目

(1) 住宅防火対策の推進

ア 設置義務化を踏まえた住宅用火災警報器の早期設置の促進

- イ 住宅用火災警報器の不適正販売に係る予防策の周知
 - ウ 住宅用消火器をはじめとした住宅用防災機器等の普及促進
 - エ 防災品の普及促進
 - オ 消防団、婦人（女性）防火クラブ及び自主防災組織等と連携した広報・普及啓発活動の推進
 - カ 地域の実情に即した広報の推進と具体的な対策事例等の情報提供
 - キ 高齢者等の災害時要援護者の把握とその安全対策に重点を置いた死者発生防止対策の推進
- (2) 放火火災・連続放火火災防止対策の推進
- ア 「放火火災防止対策戦略プラン」を活用した放火火災に対する地域の対応力の向上
 - イ パチンコ店及び物品販売店舗における放火火災防止対策の徹底
 - ウ 放火火災・連続放火火災による被害の軽減対策の実施
- (3) 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
- ア 防火管理体制の充実
 - イ 避難施設等及び消防用設備等の維持管理の徹底
 - ウ 防災物品の使用の徹底及び防災製品の使用の促進
 - エ 防火対象物定期点検報告制度の周知徹底
 - オ 違反のある防火対象物に対する是正指導の推進
 - カ 個室ビデオ店等の個室型店舗における防火安全対策の徹底
 - キ 高齢者や障がい者が入居する小規模福祉施設における防火安全対策の徹底
 - ク 小規模雑居ビルにおける防火安全対策の徹底
- (4) 製品火災の発生防止に向けた取組の推進
- ア 製品の適切な使用・維持管理及び製品火災に関する注意情報の周知徹底
- (5) 林野火災予防対策の推進
- ア 林野周辺住民、入山者等の防火意識の高揚
 - イ 火災警報発令中における火の使用制限の徹底
 - ウ 火入れに際しての手続き等の徹底
 - エ 林野所有者等に対する林野火災予防措置の指導の強化

3 地域の実情に応じた重点目標の設定

火災予防運動の実施に当たっては、必要に応

～住宅防火いのちを守る7つのポイント～

—3つの習慣・4つの対策—

3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、**住宅用火災警報器**を設置する。
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、**防災品**を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、**住宅用消火器等**を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、**隣近所の協力体制**をつくる。

じて次の事項等を追加するなど、地域の実情に応じた運動を積極的に展開します。

- (1) 地域における防火安全体制の充実
- (2) 震災時における出火防止対策等の推進
- (3) 大規模産業施設の安全確保
- (4) 電気火災予防対策の推進
- (5) 消火器の適切な維持管理
- (6) 乾燥時及び強風時の火災発生防止対策の推進
- (7) 文化財建造物等の防火安全対策の徹底

4 全国火災予防運動ポスター

昨年の秋季全国火災予防運動に引き続き、現在テレビ等でご活躍されている、福田沙紀さんをモデルとしてポスターを作成し、全国の消防機関等へ配布しました。

さらに、火災予防運動の実施に当たっては、住宅火災による死者の発生防止対策の要点をまとめた、「住宅防火 いのちを守る 7つのポイント」を使って、積極的に広報を行います。



平成22年春季全国火災
予防運動広報用ポスター



「めざせ西京 火災ゼロ」への挑戦



京都市西京消防団 団長 土肥 正義

1. 京都市西京区の紹介

京都市（人口約147万人、面積827.90km²）は、京都府の南部にあたる山城盆地の北部を占め、東、北、西の三方を山に囲まれた盆地に市街地を形成しており、市内を鴨川と桂川が貫流しています。市内には世界文化遺産をはじめ多くの文化財が、山紫水明と称えられる美しい自然と調和しながら受け継がれ、国内外から年間約5,000万人の観光客が訪れる国際的な文化観光都市です。

京都市西京消防団の管轄する京都市西京区（人口約15万2千人、面積59.20km²）は、市の西部を流れる桂川右岸の西部地域一帯にあり、北の愛宕山を背に、南に古戦場である天王山を望み、東に桂川、西には西山山麓の豊かな自然を有する地域です。区内には、天下の名勝嵐山等の名所旧跡を数多く有しています。

2. 西京消防団の現況

京都市の消防団は、各行政区に設けられた11の消防団とおおむね学区単位に設けられた205の消防分団で組織されています。

西京消防団は、昭和51年10月に西京区の誕生と同時に団本部と8分団で発足しました。その後の人口増加に伴い、現在では15分団となり340名の団員で活動に励んでいます。

本市では、年間の火災件数220件以下の定着に向けた取組が推進されているところであり、当団においても管轄区域の無火災を目指すとともに、焼死者を一人も出さない決意で、総力を結集して防火・防災活動に取り組んでいます。

3. 「めざせ西京 火災ゼロ」への取組

京都市では常設の消防隊が充実していることから、消防団活動の大半は予防活動です。西京消防団では、「めざせ西京 火災ゼロ」をスローガンに掲げて予防活動に取り組んでおり、その一部を紹介します。

○ 防火・防災の訴えを強化

消防団として最も身近にできる火災予防活動として、広く区民への防火・防災の訴えを強化しました。

京都市では、毎月5日20日を無火災推進日と定め、この日に行う夜回りのほかに、多くの人が集まる駅や物品販売店で、予防運動中に街頭広報を強化しました。また、区民ふれあいまつりにおいては、防火・防災啓発コーナーとして、「住宅用火災警報器設置普及」、「救急指導」、「地震体験」及び「消防士になろう」の各コーナーを設置し、防火・防災をアピールしました。

○ 子どもたちへの防火安全対策の推進

西京区の年齢構成は、14歳未満の若年層が占める比率が約15パーセントと市内で最も高いことから、これらの未来を担う子どもたちへの防火安全対策を推進しました。

消防団員が幼稚園や保育園に出向き防火教室や防火劇を行い、幼児に火の恐さを教えるとともに保護者への防火指導も徹底しました。また、分団器具庫へ小学生を招き、消防団の役割や消防団の保有する器材について説明をするほか、児童とともに防火見回り活動を行うことで、防火意識の定着に取り組んでいます。

中学生に対しては、救命講習を実施するなど、各年齢にあわせた対策を推進しています。



4. 大規模災害への備え

平常時の災害現場活動はもとより、大規模災害発生時にこそ、地元住民の消防団への期待も高く、その被害を最小減にとどめるためには、消防団の活動が大きな役割を果たすものと考えています。そのため、各分団が地域の特性に応じて実施する訓練のほかに、西京消防団では毎年、消防団に装備されている小型動力ポンプや無線などをはじめとする各資器材を活用した実践的な訓練を行っています。

大規模な山林火災に備えての林野火災防

御訓練、桂川の氾濫や山間部での土砂災害に備えての水災警防訓練及び大震災に備えての震災警防訓練を実施し、団員の活動能力向上や技能の伝承を図るとともに分団同士が連携を密にさせ、大規模災害時に一丸となった組織的な活動ができるように備えています。



5. おわりに

阪神・淡路大震災を機に住民の防災に対する意識が高くなり、近年の各地域で発生したゲリラ豪雨などから自主防災への意識がさらに高くなっています。このように、火災のみならず、あらゆる災害から地域住民や西京区を観光等で訪れる方々の安全を確保していくことが、西京消防団の責務であり、その役割はますます重要になるものと考えています。

京都市では、平成22年1月10日に消防団員の活動服が一新され、さらに鳳凰をデザインしたエンブレムが作成されました。

この新しい活動服をまとい、西京消防団では、昔ながらの伝統を守りつつ新しい取組に積極的に挑戦しながら、新時代に即した消防団として、「いつまでも安心で安全なまち」を目指しながら、より地域に根ざした活動を心がけ、「西京 火災ゼロ」へ挑む決意を新たにしたところです。



「災害に強い まちづくりを目指して」



神奈川県開成町消防団 団長 石井 勝

1. 開成町の紹介

開成町は神奈川県西部にある足柄上地区の中央部に位置する人口約1万6千人の町です。町域の面積は6.56km²と県内で一番小さな面積ながらも人口増加率が高く、本年4月には新設小学校の開校を控えているほか、企業の誘致により、県西地域における副中心都市としての質の高いまちづくりが期待されています。



出初式での一斉放水

2. 消防団の組織体制

昭和30年、酒田村と吉田島村が合併し、町制が施行されました。それに伴い両村の消防団が統合し、開成町消防団が誕生し、7分団、148名でスタートしました。その後、火の見鉄塔の建設、活動服の整備、小型動力ポンプ、消防ポンプ自動車の購入等が行われ、当町の消防力は飛躍的に高まったと言われてしています。

現在の団組織は、1本部、7分団で編成され、団員数は平成21年12月現在、定員108名に対して101名、充足率93.5%となっております。退団に伴う補充は、従来管轄区域からでしたが、21年度から町内在住であれば、管轄区域外からでも入団できることに内規を変更し、定員の充足に力を注いでいるところです。

また、当地域の常備消防である足柄消防組合は、足柄上地区1市5町を管轄する、県内唯一の組合消防として、各市町消防団との連携強化に取り組んでいます。

3. 消防団の活動

年間の主な行事としては、4月の消防大会（礼式訓練、辞令交付、操法演技等）から始まり、ポンプ性能検査、水防訓練、9月には町防災訓練への参加（自主防災会で



全国女性消防操法大会

の訓練指導)、秋の防火広報、年末特別警戒、1月の出初式、春の防火キャンペーン、その他、月2回の定期点検日には、機械器具点検、放水試験、管轄区域の巡回パトロールを実施しています。更に今年度は、近年の集中豪雨等による災害を最小限に食い止めるための、水害を想定した災害図上訓練も初めて実施しました。

福利厚生面では、分団対抗パークゴルフ大会等の開催、安全管理面では各種研修会・講習会への積極的な参加など精力的に取り組んでいます。

4. 自主防災組織との連携

平成21年10月22日に開催された、第19回全国女性消防操法大会に、神奈川県代表として自主防災組織の女性消防隊が出場しました。昨年5月に県消防協会から出場要請を受け、地元自治会、足柄消防組合、消防団それぞれが協力し合い、半年間にわたり女性消防隊の訓練指導及び応援に携わってきました。

大会当日まで怪我もなく精一杯演技が披

露できたことは、誠に喜ばしいことです。

この経験は、有事の際において、常備消防、自主防災会、消防団が連携して活動していく上の礎になるものと確信しています。

5. おわりに

開成町消防団としては、今後とも常備消防、自主防災会とのより一層の連携を図りながら、消防防災技術の研鑽練磨に励み、地域総合防災活動の中核として、地域住民の信頼と期待に応えるべく努力をしていく所存であります。

また、地震や風水害は、近年複雑・多様化してきている中、これらの災害は、町消防団単位の活動だけでなく、相互応援等により近隣市町との広域的な活動が重要であり逼迫性が高まっています。早急に、その対応を検討すべきと考えます。



災害図上訓練



「地域に密着した消防団」



大阪府島本町消防団 団長 辻本 清志

1. 島本町の紹介

島本町は大阪府の北東部に位置します。木津川、宇治川、桂川の三川が合流し淀川となるその右岸側となります。ほぼ南北に細長い形をし北西部に山岳丘陵の地形をなし、淀川沿いの平坦地に南北に市街地を形成しています。町域の面積は16.78km²となり約70%は山岳丘陵で占められています。

また、JR東海道本線・新幹線、阪急京都線、そして国道171号線、名神高速道路の主要交通幹線が町の中心部を通ることから交通の利便性に恵まれ、京都、大阪の大都市への通勤・通学が多く、豊かな緑や水という良好な生活環境から、衛星都市のベッドタウンとして発展し、平成21年4月1日現在の総人口29,566人、世帯数11,906世帯となります。



2. 島本町消防団の紹介

島本町消防団は、団本部と本部附属分団、機動分団、広瀬分団、尺代分団、山崎分団、東大寺分団、桜井、桜井西側、高浜分団の9つの分団で構成されており、団員定数は138名であります。

平成21年4月1日現在、消防団員132名で消防本部と連携を密にして、郷土愛護の精神に基づいて地域住民の安全確保に努め住民の信頼に応えております。

消防車両は、消防ポンプ自動車1台、小型動力ポンプ付積載車7台を配備しております。



3. 消防団の活動

消防団は地域の安全確保を図る最も身近な機関であります。災害の対応はもちろんのこと、地域訓練、イベントへ積極的に参



多機能型車両積載の資機材取扱い訓練の様子

加し、他の団体との連携を深めております。

また、ベッドタウンとして発展した都市部と山間部を併せて管轄する地域の実情を常に認識し、団員の技能・知識向上を目的に時代に即したさまざまな訓練を実施し、防火・防災に力を注いでおります。

幹部・機関員を対象にした訓練では、新たに整備した消防資機材訓練を実施するとともに、可搬ポンプ操作訓練、訓練礼式といった基本訓練を実施することにより、団員の士気高揚に努めております。

また、消防団員としての応急手当に関する

正しい知識と技術の修得を図り救命技術の向上を図るため、普通救命講習を継続して実施しております。

10月に開催する分団対抗の島本町消防団ポンプ操法訓練大会では、いかに早く放水して標的を落とすかを競う実践に即したポンプ操法大会を実施しております。毎年、各分団員による白熱した競争、応援が繰り上げられております。

4. おわりに

地域に密着した消防団員に対する期待は年々大きなものとなっております。

地域の消防・防災のリーダーの担い手としての自覚をもち、信頼される島本町消防団を目指して、全消防団員が一致団結して日夜、貢献してまいります。





シンフォニー（東京都）

「寸劇チーム15分間の奇跡」

滝野川消防団 班長
戸井田 由美子

私たち滝野川消防団には都内では珍しい演劇のチームがあります。チームとはいえ構成員全員がもちろん消防団員で階級や自己分団の枠を超えて活動しています。



毎年恒例の消防署の行事である「消防おもしろ村」のステージに消防団も何か参加しては…との声かけで寸劇の話が持ち上がったのは平成18年の秋のことでした。

この時のテーマは「AED」。消防団員の私にとってもまだまだ知識が少なく、一般の方にその存在を知っていただく目的で台本が作られました。

内容は、公園で散歩中のおじいさんが突然苦しみだし倒れてしまいます。「火の用心」の広報活動をしていた「防火女性の会」の方が助けを呼び、消防団員が駆けつけ救急車の到着まで人工呼吸、心臓マッサージを行い、AEDを使って応急手当をします。

回復したおじいさんの容態を救急隊へ報告し、病院へ搬送するまでの劇でした。この時の私の担当はナレーションでしたが翌年の10月にこれも北区恒例の行事、「区民まつり」のステージで消防団として翌年、団長の提案でこれも北区恒例の10月行事である「北区まつり」のステージで団員募集の広報も兼ねて寸劇参加する運びとなりました。

初回の寸劇でナレーションを担当させていただいた私に脚本のお話をいただき、前回に肉付けした台本作りが始まりました。

折りよく7月に滝野川消防署員の方の「救急訓練効果確認」を見学する機会に恵まれました。この時の想定が「口腔内異物除去」でした。異物を飲み込む事故は、年々増加しているとの説明を受け、これを寸劇に加えようと即断即決で、帰ってからすぐさま台本作りです。

おじいさんが何かを喉に詰まらせる…茶店と団子がすぐに浮かびました。茶店の看板娘、お客さん、ジョギングの男性…登場人物も増やし「区民祭り」の観客も考慮して赤ちゃんも登場させよう…消防団員がいきなり駆けつけるのは不自然だから広報活動の最中に発生したことにして…お子さんの目をひくためには？

そう！消防のキャラクター、「キュータ

くん」に手伝ってもらえないかな…
救急隊もミニ救急車で登場したら子供たちは喜んでくれるかな…
どんどん内容が大がかりになりました。

実は後でわかったのですが「キュータくん」の着ぐるみやミニ救急車を借りる手続きは大変らしいのです。本団の方と署員のかたのご協力で整えていただき感謝です。

新たに各分団から劇団員を選考し茶店のセットや小道具も作成して、よりリアル感のある劇に仕上がりました。

特に異物除去の場面に力を入れ大人、子供、赤ちゃん、それぞれの対処法を分かりやすく展示しました。劇を見ていただいた地域の方々からも大絶賛され、初舞台にしては大成功でした。

2回目になる「消防おもしろ村」の上演を経て、12月に入ると菊川団長から「2月に行う消防学校での“意見発表会”の舞台で寸劇を上演して欲しい」と依頼があったとのことがありました。

いきなり演劇部、大舞台での上演です。セリフを見直し、消防団入団促進を図る内容を加え、応急手当と救急隊員役の演技は署の救急隊の方にもアドバイスをいただき臨場感のある場面作りができました。

キュータくん役の方には手話まで猛練習していただき翌年の消防団始式での舞台上



演を予行練習とし、消防学校への舞台下見もさせていただき本番を迎えました。この時、第五方面代表として意見発表された同じ滝野川消防団の若林さん（今年は劇団員としてナレーターで参加）が見事に最優秀賞に輝き、我が演劇部も皆さんからお褒めの言葉をいただき花を添える事ができました。

また去年は、地震で崩れた荷物の下敷きになったお父さんを消防団の息子が助け、応急手当をする場面と、火災発生で住宅用火災警報器が鳴り初期消火できた場面を中心に舞台に立ちました。



そして今年の上演は…

「住宅用火災警報器の設置促進」を図る内容で新たに脚本を書きました。

おばあちゃんが天ぷらの最中に火を消し忘れ近所のおばさんと話し込みます。鍋から煙が出て警報器が鳴り、駆け付けた消防団員が初期消火…この後に天ぷら鍋火災による消火方法の展示と軽いやけどを負ったおばあちゃんの手当てをし、やけどの応急手当の展示などを軸にした劇を展開し、会場にキャラクターショーを見に来ていた若い世代の親子さんにも大好評でした。

一般の方に消防団の活動の一環を寸劇にして見ていただく事で消防団への理解と入団促進が図れ、効果的な広報活動であると自負しております。

「現在・過去・未来 思いを継いで、つないで」

狩江女子消防隊のあゆみ

愛媛県 西予市明浜分団 分団長 酒井 郁子



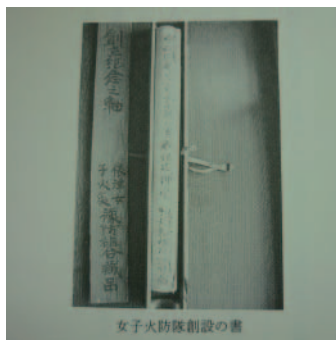
過去

わたしの住む明浜町は、西予市の西に位置し、宇和海に面した東西14キロに及ぶリアス式海岸と、集落の背後には、石灰岩の段々畑が迫り、気候的にも穏やかな半農・半漁の町です。その明浜町の狩江地区に私の所属する明浜分団があります。前身は「狩江女子火防隊」として大正10年に結成され、有に88年という歴史のある女子消防団です。



狩浜の段々畑

大正時代の狩江地区は、鰯網漁業に男子の多くが従事し、昼夜を問わず出漁していたため、もしもの非常時に即、対応しなければならないのは留守を守る女性たちでした。また、平地に乏しく人家稠密の狩江地区において一番の不安は火災であったと思われます。「もしもの時、男子消防団員が不在でも、自分たちの地域は、自分たちで守ろう」を合い言葉に「狩江女子火防隊」が立ち上がったのでした。そして、昭和33年1月の町村合併で「明浜町女子消防隊」と改名し、平成16年の再度の町村合併で「西予市」になってからは、「明浜方面隊 明浜分団」と三度、組織名を改め 女子消防団も男子団員と共に、毎月1日には、軽可搬ポンプの取り扱いや、消火栓の確認をし、本格的に系統立った小隊訓練・消火訓練や火災予防啓発活動を続け現在に至っています。



女子火防隊創設の書



狩江第2分団詰所前
(女子火防隊・前から2列目)



狩江女子消防隊の消火訓練（昭和10年頃）

現 在

海と山に囲まれ、集落が密集している土地がら、地域全体が火災には特に気をつけ、幸いなことにわたしたち女性消防団員が実際に火災現場にかけつけるというようなこともなく長い間“無火災”が続いていましたが、平成17年12月に2回、翌年あけ早々に1回、狩江地区に建物火災が続けて発生したのです。

サイレンとともに現場にかけつけた時、男子団員の機敏な動きと、他の分団との連携等々、団としての統制のとれた活動を目の当たりにし、あらためて日ごろからの消火訓練の大切さや、指揮者の号令ひとつで動く統率のとれた小隊訓練の重要性を知ったのでした。また、現場には、消火栓にホースをつなぎ初期消火に協力していただいた女子消防団OBの方々の姿もありました。昔とった杵柄・長年の訓練が生かされ、即、行動に移せることに力強さを感じました。あってはならない、まさかの火災でしたが、人的被害がなかったことに安堵し、消防団員として

の使命感や組織としての節度を意識する貴重な機会になりました。毎月行っていた、軽可搬ポンプの操作講習や消火栓の確認にも更に力が入り、平成20年の西予市消防出初式では、心を一つに整然とした停止間訓練を披露することができました。

明浜分団の、現在の団員数は36名。全員が家庭をもつ主婦です。うち17

名が夫婦共に現職の消防団員で、OBの方も含めると、ほぼ全員が団員経験者です。また、親子とも団員（母と息子）という方もおられます。さすがに、嫁・姑というケースの方はおられません、「嫁に来て、消防団員だったお姑さんに「入らないけるかい」と勧められて入ったのよ」と言われる方が大勢おられます。親から子へ、姑から嫁へと続く伝統、後押ししてくれる「家族の理解と協力があればこそ」の明浜分団です。家族の、たくさんの思いに支えられて活動ができることは、ありがたいことです。



地震・津波避難訓練



訓練礼式

未 来

80歳になる私の母も、女子火防隊員でした。一つの組織を長い間、維持し続けることは並大抵なことではありません。リーダーの統率力、団員ひとりひとりの意識、地域・自治体、そして家族の支え。その、どれが欠けても成り立ちません。

世の中は目まぐるしく変わり、女性も仕事に就き、家から外へどんどん出て人の価値観も様々です。その上減少する団員数の確保と維持、幹部役員の人選、活動内容や組織そのものの見直し等、団として考えたり解決しなければならない問題も、たくさん抱えています。とりわけ明浜町内での他地域の女子消防団員の勧誘やピールは今後の大きな課題です。

組織維持を考える時、私は、いつもダーウィンの「進化論」と「不易」という言葉が思い浮かびます。「進化論」では、最後に生き残るのは、強いものでもなければ賢いものでもない、唯一生き残れるのは変化に適応できるものであると説いています。「不易」は、流行に左右されず不変なことです。いろいろな環境の変化に即対応でき、生き残れるよう

変えなければならないことと、何年経っても根っこの部分として不易で譲れないこと。取捨選別しながら進んでいかなければならないと思います。組織そのものの形は、時代の流れや団員さんの思いで新しい方向で変えていけばいいと私は思っています。でも、「自分たちの家族や家や地域を、自分たちのできる方法で守りたい」という思いで結成された女子火防隊の80数年来の思いだけは、明浜分団の根っこの部分として、私たちが継いで、そして、次へ繋げていかなければならない責務だと思います。

私も、やがて息子が地元に戻り、お嫁さんをもったら、そのお嫁さんに「消防団に入らないけるかい」と言える日が来ることを楽しみにしています。



狩浜地区の秋祭り

少年消防クラブ活動に参加しませんか

総務省消防庁 防災課

地域の安心・安全のためには、小さな頃から防災意識を身につけることが重要です。少年消防クラブは、子どもの頃から火災予防や防災に関する知識を身につけ、各家庭や学校における火災の減少を図ることなどを目的として、少年少女が参加しているクラブです。

クラブ員である少年少女たちは、防火・防災や消防に関する知識の習得や、初期消火などの実践的な訓練、研究発表会、地域の防災イベントや啓発活動への参加、防災キャンプなどのイベントに参加することで、命や暮らしを守ることの大切さを学ぶとともに、防火思想の普及に努めています。平成21年5月1日現在、日本全国で5,095クラブ、約43万人のクラブ員たちが活発に活動しています。

少年消防クラブの活動内容はクラブによって異なりますが、例えば以下のような活動が行われています。

講習会・防災訓練等への参加

防災講習会や防災訓練などに参加し、地震などの自然災害が発生する仕組みを学習したり、消火器などを使った初期消火の方法、ロープワーク、三角巾を使用した応急手当の方法などを体験学習しています。

研究発表、ポスター作成

防火・防災に関する研究発表会を行い、その成果をまとめたレポートや防火ポスター、防火新聞等を校内に展示したり、各家庭に配布するなどして、火災予防や防火思想の普及に努めています。



放水訓練をする少年消防クラブ員
(写真提供：札幌市消防局)



ヨーロッパ青少年
消防オリンピックの様子
(手押しポンプによる放水)

防災まち歩き、防災マップ作り

クラブ員たちが自分たちのまちを実際に歩き、消火栓の場所や災害時の危険箇所などについて把握し、防災マップを作成することなどを通して、自分たちのまちに対する理解を深めています。

防火広報の実施

消防職員・消防団員とともに、地域の住民の方々に火災予防を呼びかけるため、火災予防運動実施期間や年末を中心に防火パトロールや防火パレードなどの防火広報活動を行っています。

防災キャンプ

夏休みなどを利用して、小学校の体育館や運動場、キャンプ場などに寝泊まりし、炊き出し、キャンプファイアなど普段できない活動を通して、仲間との連帯感を高めています。

少年消防クラブはこれまで、10歳から15歳までの少年少女を中心として編成されていましたが、少年消防クラブ活動で防火・防災を学んだクラブ員たちが、中学校卒業後も引き続き地域防災に貢献することが期待されていることを踏まえ、消防庁では、少年消防クラブの対象年齢を18歳まで拡大することなどを通して、こうした環境づくりを進めることとしています。

このような中、平成21年7月にチェコ共和国で開催された「ヨーロッパ青少年消防オリンピック」に、日本から初めて4少年消防クラブの中学生・高校生20名が日本代表として特別参加し、ホース延長やロープ結索などが取り入れられた消防障害物競技などの種目に挑戦するとともに、ヨーロッパ地域22か国の選手たちと国際交流を深めました。

少年消防クラブでの活動を通して火災予防や防災に関する知識や技術、強い防災意識を身につけたクラブ員たちが、将来、地域防災の担い手として社会に大きく貢献することが期待されています。

防災・危機管理教育

～e - カレッジの大幅リニューアル～

総務省消防庁 防災課

あなたは災害から生き残ることができますか？

災害から自らの身を守るためには、日頃から防災知識を身につけておく必要があります。

また、周りにいる大切な人を助けるためにも、十分な知識が必要です。

災害はいつ、どこで起こるか分かりません。

いざというときの最低限必要な防災知識は、ただちに身につけましょう。

消防庁がコンテンツを提供している「防災・危機管理e - カレッジ」では、災害について基礎から学ぶことができます。

特に、「いざというとき役立つ知識コース」では、災害が起こったときに知っておくべき知識や技術をまとめています。

初期消火、救命手当、救助、119番通報、電気安全、ガス安全、避難、安否の確認、災害時の電話の使用、気象庁から発表される情報、災害時のインターネットを通じた各種情報の入手など、いざというときに役立つノウハウについて学ぶことができます。

ポンプ操法、救命、AED利用方法のコーナーがさらに充実！

消防庁では、平成22年3月末に「防災・危機管理e - カレッジ」を大幅にリニューアルする予定です。

まず、消防団員の方に人気のポンプ操法のコーナーに、消防操法の基準で示されている「小型ポンプ操法」の内容を分かりやすく解説したコンテンツを新たに追加します。

また、新しい日本版救急蘇生ガイドラインに沿った「(AEDを用いた)心肺



小型ポンプ操法



心肺蘇生の手順

蘇生の手順」を学べるように、救命手当のコーナーを更新します。

災害映像30本、写真200枚を掲載

今回のリニューアルの二つ目の特徴として、日本の自然災害に関するたくさんの映像や写真をダウンロードすることができるようにします(一部を除く)。

これは、消防職員や団員の皆さんが、地域の自主防災組織や小中学校で防災についての話をする際に活用していただくことを想定しているためです。

阪神・淡路大震災発災直後の神戸市内の様子、新潟県中越地震の際の土砂崩れの瞬間、土砂崩れの現場からの幼児の奇跡の救出、新潟県中越沖地震発災の瞬間など地震関連の映像をはじめ、栃木県宇都宮市での稲妻、新潟県における豪雨災害の様子など、それぞれ動画で配信します。



災害写真(新潟県中越地震)
(写真提供:東京消防庁)

学校で、地域で、すぐに使える防災教材

今回のリニューアルの三つ目の特徴として、消防職員や消防団員の皆さんが、小中学校での防災訓練や自主防災組織への研修会などに使っていただくための防災教材をダウンロードできるようにします。また、指導者用テキストや参加者用シートをバインダー形式でも全国の消防署や消防団に配布します。「対決!バケツリレー」、「家にいるときに地震があったら?」など48項目あります。どうぞご活用ください。



防災教材

消防団の広場

大分県

消防団員意見発表会で最優秀賞を受賞して

津久見市消防団第1分団
班長

上杉 一洋



私は、第10回大分県消防大会消防団員意見発表会に津久見市消防団を代表して出場しました。

何を発表しようかと考えたときに、まず最初に頭の中に思いついたことは、2人の小学生の子供と妻を巻き込んだ家庭の中での操法訓練のことでした。そうだ、これなら文書が書ける、と思い「家族ぐるみの操法大会」のテーマで発表しました。

私が思うに、操法こそが消防団活動の中で必要不可欠な訓練のひとつだと思えます。ほんの数分間の中にすべての礼式節度、ホースの延長、ポンプ操作、この操法さえ体験していれば消防団活動の中で活躍できる場はいっぱいあると思えます。

いざ当日、舞台上になると、思っていた以上に緊張することはなく、会場の消防団員の顔もよく見えました。操法に対する思いが会場の皆さんに十分伝えられたので、このような素晴ら

しい賞を頂けたのではないかとと思っています。

訓練で息子と共に暑い夏の日を過ごしたことは、私にとっても息子にとっても良き財産であり、良き仲間と過ごした思い出も財産です。

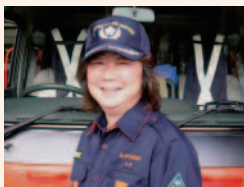
このような貴重な体験をさせてもらったことを、消防団員意見発表会の場で発表させてもらったことに感謝しています。

今後も地域住民の生命財産を守り、みんなが安心して安全に暮らせるよう今後とも一層頑張っていきたいと思います。



うちの

名物団員



島本町消防団
機動分団 副分団長

小林 則之

団員歴26年の小林さんは、地元で小林酒店を営みながら、消防団活動、

音楽活動に精を出し、地域の顔としても大活躍です。

ブルーグラスバンド（アメリカ民謡）音楽を愛し、「ザ・サウスパーキング」では、マンドリンボーカル担当でフォークミュージックからカントリーミュージックまで幅広く歌い、地域の行事やライブハウスで歌声を披露しながら、防火広報にも尽力していただいております。

今後も島本町消防団の顔として、持ち前の明るい笑顔と歌声で消防団活動や地域の活動に活躍してくれることでしょう。



五泉市消防団
女性消防部 部長

西脇 孝子

平成15年に発足した女性消防部は、現在15名の団員がいます。西脇

部長の下で、火災の一報が入れば、直ちに現場に駆けつけ後方支援を担当します。緊張と緊迫感の現場だけに、活動を終えてからの西脇部長のユニークな労いの言葉は心なやませてもらえます。

年間の事業「地域防火教室・消防訓練・街頭指導・一人暮らしの老人世帯防火訪問」など地域に根ざした活動に熱く燃えている西脇部長です。



滝野川消防団
団員

遠藤 康彦

遠藤さんは約九百年も続く、平塚神社の宮司です。神社の行事の中でも大晦日の夜から元日の朝にかけて行われる、歳旦祭は消防団の活躍する場所でもあります。

消防団員の顔から宮司の顔になった遠藤さんに（逆かな？）、神輿と法被姿の善男善女がお払いをして頂くとチョン、チョン、チョンと拍子木がはいって神輿がすーと夜空に浮かぶように担がれて、パチパチと音をたてて燃え盛る篝火で照らされた境内を、たまには揺れ、たまには曲がって、歩みはゆっくりでも元気な足取りが一つの固まりになって進んでいきます。

初詣を我先にと鳥居の前で寒さに堪えながら背中を丸めて並んでいる人々の横を通る頃、午前零時に拜殿で打鳴らされる太鼓が聞こえると祭りも最高潮です。消防団員の中には神輿を担ぐ団員もいれば、それを警戒する団員もいて団員は神社の境内で年を越して、新年を迎えるのが恒例です。遠藤さんも烏帽子をつけた狩衣姿の忙しい日々がはじまります。



津久見市消防団
第1分団 班長

宇都宮 勝治

ずっしりとした体格でポンプ操法では3番員を命じられ、時間が

あればポンプの手入れに励み、次回のポンプ操法大会では全国大会への出場をめざしています。厳しくて、思いやりのある指導で若い団員に慕われています。

大
阪
府

東
京
都

新
潟
県

大
分
県

平成21年度 全国統一防火標語

「消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子」

編集後記

ガラス越しの日差しがほんの少しではありますが、暖かさを増してきましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。また、梅もほころび、ほのかな香りを求めて、各地で盆梅展を開催されていると思いますが、私事になり申し訳ありませんが、滋賀の長浜盆梅展も昭和27年から始まり今年で59回目を迎え、高さ3mを超える巨木や樹齢400年を超える古木もあり「日本一の盆梅展」として毎年多くの方に観梅していただいております。皆様も機会があれば、気分転換にお出かけいただければと思います。

さて、今月号は21年度に実施されました26各都道府県の消防操法大会の結果、また愛媛県西予市から狩江女子消防隊のあゆみを紹介しておりますので、是非ともご覧下さい。

全国の消防団のみなさま、うちの消防団にもこんな歴史、施策をしています！という情報を是非お知らせください。

今年も定例表彰式も無事に終了し、あっという間に3月になりますが、私も編集を担当いたしました。残すところは3月号の1回となりますが、皆様のご協力によりここまで来ることができたと感謝申し上げます。

インフルエンザもまだまだ衰えないと聞きますが、消防団のみなさまも健康に留意され、ご活動いただければと思います。

(M・S)

「お詫びと訂正」

平成21年12月号に掲載のラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」出演者紹介で、京都市山科消防団鏡山分団班長様のお名前が、川内康彦さんご紹介させていただきましたが、河内康彦さんにご訂正させていただきます。

大変ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十三巻第二号
平成二十二年二月五日印刷
平成二十二年二月十日発行

編集人 岩田知也
発行所 財団法人日本消防協会

東京都港区虎ノ門二丁目九番十六
電話 〇三(303)一四八一(代)

印刷所

東京都千代田区外神田六丁目三十三
日本印刷株式会社
電話(383)六九七二(代)

消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で) 20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で) 400万円を600万円に増額しました。
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※ 加入にあたり、組合員となっていたいただくために出資金が必要になります。



生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

消防互助年金

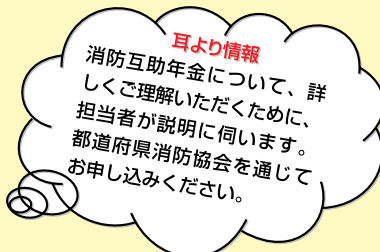
『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、(財)日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です

ホームページでも詳しく紹介しています



「互助マル君」



耳より情報
消防互助年金について、詳しくご理解いただくために、担当者が説明に伺います。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
- 生活協同組合全日本消防人共済会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5
<http://www.nissho.or.jp>